



特集 まちづくり・暮らしづくり・ひとづくり

～第四次葉山町総合計画基本構想の策定に向けて～



▲第三次総合計画の
後期基本計画の冊子

Q1. 総合計画ってなんだろう？
A1. 将来どのような町にしてい
のか、そのためにはどんな方法で
取り組むべきなのかを総合的にま
とめる計画です。

町の特性と課題、時代の流れなど
を的確に見極めながら定める町の基
本計画であり、今回はその策定に関
し、新しい取組みを実施しました。

また、総合計画は「基本構想」「基
本計画」「実施計画」の三層に分か
れて構成されています。「基本構想」
は町のあるべき将来像を設定し、実
現のための施策の方向を明らかにし
たもの。その基本構想の定めた将来
目標の達成のために、町が行うべき
基本的な施策を具体的に明らかにし
たものが「基本計画」。そしてそれ
をさらに年度別に具体化し、現実の
行財政運営の中でどのように実施し
ていくかを明らかにしたものが「実
施計画」です。

第三次葉山町総合計画は、平成12
年度から26年度の15年間の基本構想

で「海とみどりにひろがる交流 文
化のまち 葉山」を将来像に掲げま
した。現在は、平成27年4月から始
まる「第四次葉山町総合計画基本構
想」の策定に向け、取り組んでいる
ところです。

Q2. 総合計画は誰が作るの？

A2. 今回は町民ワーキンググルー
プを開催し、その後職員や有識者、
議会にはかり作成します。

計画は町民の方からのアンケー
ト、パブリックコメントとして意見
を集めたものを、専門家や有識者に
よる総合計画審議会にはかるなどし
て作られます。計画策定の主体、町
が目指すべき未来を考えるのは町民
の皆さんです。今回は、町の将来像
について意見を出し合う場として、
新たに「町民ワーキンググループ」
を開催しました。

Q3. 町民ワーキンググループとは？
A3. 葉山町民50人によって町の将
来像を討議したものです。

そのメンバーは20歳以上の町民が
ら1500人を町が無作為抽出し、
その中で参加の意思のあった男性34
人・女性16人です。20歳から78歳と
幅広い年齢の町民が参加し、「町を
もっと良くするには」、「こんな施設
や制度があれば」などの町の将来
に夢を託して真剣に討議しました。



県立保健福祉大学
白井 正樹 教授

Q4. 今後の地方自治って？

A4. ワーキンググループ初回には、
町の地域福祉計画等の策定にアド
バイスをいただいた、白井教授の
講義「地方自治の今後のあり方」
がありました。

「日本では『福祉』行政でやる福
祉』と考える人が多いが、本来は自
助や共助で対応できなかった時に法
律や制度（公助）の力を借りるとい
う考えである。欧州では教会を中心
としたコミュニティがあり、『その
地域の人々がより良い生活をするた
めに助け合い、自分たちでできない
ことはシティホール（市役所）に任
せる』という成り立ちで自治体はで
きた。

総合計画も、町の計画は町が作れ
ばいいということではない。皆さん
で町の将来のあり方を描き、それに
向かってできることと町が支援すべ
き部分を素直に語ってほしい。その
計画に基づいて、皆で一緒に汗を流
していくことが地方自治の本質だ。」
*講義より一部抜粋

「こんな町にしたい」を書き出してみよう！



そのためにしなくてはならないことって……？

▶グループワークでは町の強み・弱みに関する意見を出し合います。

Q5. 集まった意見はどうなるの？
A5. 意見は3グループから出たものをまとめ、「葉山町将来構想意見書」として町長に報告をしました。(詳しくは次ページ)

ワーキンググループでは、まず「まちづくり」「暮らづくり」「ひとづくり」の3グループに分かれ、「町の強みと弱み」「強みを伸ばし弱みを改善する取組み」「その中で町民が行えること」を話し合いました。具体的に、まちづくりグループでは、「強みである美しい町並みを、町民も美化活動などを行うことで、協力して守りながら、幅広い世代が交流できる公園の整備を望む」という意見などが出ました。

暮らづくりでは、「大きな病院が近くにない弱みを改善するため、近隣市との広域連携で町民の利用しやすい仕組みづくりができれば」という意見など。また、「自助」という意味では、日ごろから健康管理に気をつけたいという話も出ました。

ひとづくりでは、「町内の人材や地域資源を活かしきれていないので、それらを学校教育や生涯学習の場で活用すると良いのでは」などの意見。さらには行政と町民の情報交流を活性化させたいという声もありました。

葉山町のこと、どこまで知ってる？はやまクイズ★

ワーキンググループでは、参加者が葉山町についてどれだけ知っているか、クイズを出題しました！

皆さんも町の「知っているようで知らないこと」ありませんか？クイズの答えは裏表紙にあります。

難しい問題があったら、家族や友達と考えてみましょう！

第1問 町の花・木・鳥の正しい組合せは？

- ①つつじ・あかまつ・しじゅうから
- ②つばき・くろまつ・ほととぎす
- ③つつじ・くろまつ・うぐいす

第2問 町で一番高い山の標高は何メートルある？

- ①約82m
- ②約159m
- ③約208m

第3問 町のマンホールには町の花・木・鳥と何が描かれている？

- ①町章
- ②ヨット
- ③葉山牛

第4問 森戸神社境内の石碑「花はいろ、人はこころ」は誰の詩？

- ①堀口 大學
- ②高橋 是清
- ③金子 みすゞ

「こんな町にしていきたい！」

集まった皆さんの意見をまとめて
代表者が町長に報告をしました。



山梨 崇仁 町長

町長「各グループの報告をお願いします。」
福安「まちづくりは16人いて、強みが60個出たんですが、自然に関することがいくつだったと思いますか？」
町長「45とか50ですかね」
福安「そこまではいかなかったんですが、35個。一人あたり3・75個の強みを書いた中で、2・18個が自然とか美観のことだったんです。反対に弱みは交通が6割以上でした。不思議なことに、葉山の自然が好きで住んでいる人が、相反する交通の不便さを改善してほしいと言っている。難しい課題ですが、改善のアイデアを意見書にも書きましたので参考にさせていただければ。」
町長「わかりました。暮らしづくりはいかがですか。」
宮内「自然環境、ごみや生活排水、安

全安心の話をしました。私の班には大学生がいて、とても前向きな考えを聞けて嬉しかったです。非常に良い雰囲気でした。一つ言いたければ、**町民税が高いという意見が出ましたが、それは所得が高い人が多いからじゃないかと。**
町長「その通りです。町民税額の算定方法は、原則地方税法上で定められ、全国一律です。誤解もあると思うので、きちんと町の広報等でお伝えする必要がありますね。」
高梨「ひとづくりでは、参加者を見ても人材が豊かであると感じたので、人材について中心に。例えば『俳句の会を主宰していて、町のために何か活かしたいが、どうしていいかわからない』という人もいました。

その解決策で『行政と町民がもっと情報交換できれば』という案が出たんです。また、広い意味でひとづくりを考えると、例えば葉山大学のよなものを作り、町外の人にも町のことを知ってもらおう、葉山検定とかね。」
町長「ありがとうございます。さて、いただいたご意見は『現在の町について』が多いですが、もう少し将来のこと、例えば2050年には人口が33000人台から29000人台に減るといった情報もあるので、それを考えると、とるべき施策はどうでしょうか。」
船津「私は以前青年会議所に入っていた時、逗子市と葉山町の市町合併の議論に参加しました。当時は合併



まちづくりグループ
福安 徳晃さん



まちづくりグループ
船津 隆一さん



暮らしづくりグループ
宮内 一さん



暮らしづくりグループ
影山 英梨佳さん



ひとづくりグループ
高梨 麻美さん



ひとづくりグループ
古川 英吉さん

すべきと議論しましたが、今回参加して改めて『葉山らしさを残す必要がある』と実感しました。でも葉山らしさを残しつつも、交通問題は改善してほしい。高齢者は町に住み続けたくても、利便性を求めると、交通機関の発達した都会や子どもが住んでいる街に越してしまふ。コミュニ

ニティバスがあると良いですね。」
町長 「コミュニティバスは採算の問題が大きいですね。しかし少しでもバス待ちを苦痛に思わないように、バス停に屋根やベンチをつけること、バスの増設についてはバス会社と話を進めているところです。」

影山 「友達とは、大学を卒業したら町を出ていくだろうとよく話します。働くために町外に出たとして、果たして戻ってくるのかなと。高齢者や子育て世代に向けての施策に比べ、働く20代・30代に向けた施策は少なく思えます。通勤や通学の便も悪く、戻ってきたくなる魅力が足りない。葉山に住みながら働けたらな。」

古川 「自転車に乗ることを勧めて、交通問題を解決するのはどうかな。」
町長 「自転車については、駐輪場の整備などを検討したいですね。また、町で働くことについては、産業も欠かせない。ビルや工場は作りません

が、古民家を再生して仕事場にするなど、そこに法人が入ってきてもらえたらと思っています。」

福安 「私のオフィスは横浜ですが、バスに移動時間がもつたと言われ、ほば家で働いています。」
古川 「その暮らしを紹介することで、外国の人からも葉山に住みたいと思ってもらえれば良いですね。」

船津 「農業で誘致するのも良いな。」
宮内 「私は環境に関する仕事を長くしていたので、環境マネージメントシステムの認証を提案しました。町の特徴を出した施策を打ち出してほしいですね。ごみ削減も、もう少し意識付けの方法があるかなと。」

町長 「来年の6月から全町で戸別収集をする予定です。その前提としては『ごみの削減』が大切ですからね。」
古川 「生ごみの堆肥化は？」

町長 「受け入れる農家が少ないと、堆肥の使い道がなく、難しいことがあります。しかし家庭用生ごみ処理機のキエーロは安定して売られていますし、各小学校にも生ごみ処理機やキエーロを設置するようにしています。子どもには、『生ごみを堆肥化するの当たり前のこと』と教えたい。最後に、参加されての感想は。」
宮内 「交通の便が良い都会よりも、

通勤に2時間かかっても葉山に住みたいと思う人もいる。個人の価値観がある中で、どのような計画を作られるか難しいと思います。」
船津 「今の町が好きで、高いビルや多すぎる観光客を望んでいない人は多いです。守るところは守りながら、バスのストレス軽減とか、古民家の活用に力を入れてほしいです。」

影山 「私は昔力ギっ子だったので、児童館の充実もしてほしいです。それで交通の問題も少しずつクリアしていったらいいですね、若者もまた戻ってきたいと思えるのは。」

古川 「私は40年近くこの町に住んで、行政の歴史を見てきましたが、最終的にこの計画は議会や審議会にかける過程がありますよね。少しでもこの意見を反映させるように、審議会にワーキンググループの参加者を入れてみてはいかがでしょうか。」

町長 「確かにこの計画は、議会などにも声をかけて議論するものです。しかし今回のように、町民の皆さんと作る計画であることを大前提に置き、今後も計画策定を進めていきたいと思います。」

